

大学野球選手における肘関節内側の緩みと尺側側副靱帯の超音波評価

佐々木淳也、高原政利、荻野利彦、柏英雄、石垣大介、金内ゆみ子

山形大学医学部整形外科

目的：野球選手のように投球を行うスポーツ選手には、肘内側不安定症が多くみられる。この研究の目的は、肘関節内側の超音波検査によって野球選手における変化を検出することである。

方法：肘関節内側の緩みと尺側側副靱帯を評価するために、30名の大学野球選手（投手12名、野手18名）の肘関節を90度屈曲位とし、重力によるストレスをかけて、肘関節内側の超音波検査を行った。利き手（投球）側と反対側を比較した。また、臨床所見と超音波所見を比較した。

結果：投球側では、内側関節裂隙は有意に増大し（投球側 2.7mm、非投球側 1.6mm； $p < 0.01$ ）、尺骨近位部は有意に外側に移動した（ $p < 0.01$ ）。尺側側副靱帯の屈曲変形が5名にみられ、尺骨近位部の外側移動に有意に関連した（ $p < 0.01$ ）。肘関節内側痛は、内側関節裂隙の増大（ $p < 0.05$ ）と尺側側副靱帯の屈曲変形（ $p < 0.01$ ）に関連した。

結論：肘関節内側の緩みと肘関節外反が野球選手の肘関節では増大していた。尺側側副靱帯の屈曲変形は靱帯が滑車内側遠位端の上で曲がることを示している。超音波検査は投球を行うスポーツ選手の肘関節内側の緩みと尺側側副靱帯の状態を評価するのに有用である。